

序

本校開校六十年の記念祝賀式を舉ぐるに當り、先づ懷想に堪へないものは六十年の歴史である。我が國女學の先驅として生まれ、其の淵藪として重きに置かれ、我が國教育界に不斷の貢獻を續け來つた歴史である。其の間、組織と編制とに於て幾變遷を経過してはゐるが、すべての變遷を通じて一貫せる進程は、帝國女學の向上と發展とであり、本校今日の盛運の基をなせるものである。我等は其の歴史の上に仰ぐ、輝かしき皇室の御恩寵と歴然たる先人の功績とを想うて、滿腔の感激に堪へない。校史編纂の意圖も亦此の抑へ難き感激の餘に出づるものである。

たゞ、半世紀を超ゆること十年の長き沿革を詳敘し盡くすことは容易

の業でない。殊に極めて短き編纂期日を以てして完成を期せんことは一層の難事といはなければならない。しかも、編纂委員諸君の精勵と努力とによつて、之が纂成せられ、茲に記念祝賀式の日に於て刊行することを得たのは誠に欣悦の至である。而して、由緒深き過去と希望に充つる將來との間に立つる小さき道標として、本校の洋々たる前途に對する祝福の心を之に籠めるものである。

昭和九年十月

東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫

凡例

一、本書は前に刊行された本校の沿革誌を初め、本校所藏の記録、其の他委員に於て蒐集したところの資料によつて編纂した。

一、編纂の方針としては、本校の沿革を編年體になるべく委しく敘述すると共に、之に關聯する一般記事及び考證を交へ、以て理解と興味とを添へた。又、過去の沿革のみならず、現狀に就いても相當の紙數を用ひた。

一、卷頭の寫眞は本校の各時代を語る系統的資料としてよりも、片鱗的に本校の昔を偲ぶ感興の一助にもと考へて選んだものが多い。又、其の中でも舊刊の沿革誌に用ひられたものは重複を避けて割愛し、専ら新蒐集のものをを用ひた。

一、本書の資料に就いては、本校の部は内藤委員に於て、先づ其の蒐集をなし、附屬校園の部はそれぞ

れ其の部から提出されたものによつた。其の他各方面からの好意ある示教を受けたのであるが、紙数の關係上省略節約したものの多かつたことは遺憾に堪へない。切に諒恕を乞はざるを得ない。

一、全卷を通じて、資料の選擇、排列の均衡等に不用意な缺陷も尠からず、又、時に意外の誤謬なきを保し難い。委員等の微力を愧づると共に、大方の高教を乞うて將來の訂正を期したい。

昭和九年十月

編纂委員誌す

目 次

乱丁

第七章	東京女子高等師範學校時代(其ノ二)	一五二
第八章	東京女子高等師範學校時代(其ノ三)	二〇一
第九章	本校の現狀	二〇六

後 篇

第一章	附屬高等女學校	二三三
第二章	附屬小學校	二六五
第三章	附屬幼稚園	三〇六

附 録

校長略歴	東京女子高等師範學校概要	第六臨時教員養成所概要	東京女子師範學校規則	最初の舎則	如蘭會	櫻蔭會
------	--------------	-------------	------------	-------	-----	-----

東京女子高等師範學校六十年史 目次

序

前篇

第一章	本校の創立……………	三
第二章	東京女子師範學校時代……………	三五
第三章	高等師範學校女子部時代……………	五一
第四章	女子高等師範學校時代(其ノ一)……………	五八
第五章	女子高等師範學校時代(其ノ二)……………	八三
第六章	東京女子高等師範學校時代(其ノ一)……………	一〇四

目

次

一

前篇